

## ノネズミ害とノウサギ害の区別のしかた

藤 卷 裕 蔵

最近、あちこちで10年生ぐらいのドトマツにノウサギ害がでている。ところが、これがエゾヤチネズミによる食害として報告されることがよくあるので、エゾヤチネズミとノウサギによる被害の区別のしかたについて述べたい。

エゾヤチネズミもノウサギも、夏の間は草を食べているが、冬になって草がなくなると、木の皮を食物とする。細枝を食べるときには切りおとす。この場合、エゾヤチネズミは皮だけを食べて木部を残すので、食害あとにはマッチ棒のような食べ残しがのこっている。しかし、ノウサギは切りおとして全部食べるか、切りおとしたまま残す（写真



写真1 ノウサギによるヨーロッパアカマツの被害。細枝が切りおとされている。

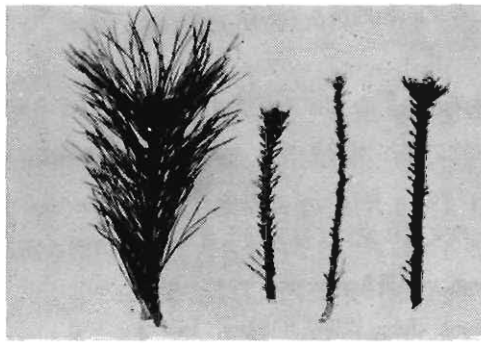


写真2 ノウサギによるヨーロッパアカマツの被害。針葉が長いときには針葉だけが食べられることがある。左が無被害、右の3本が被害木。

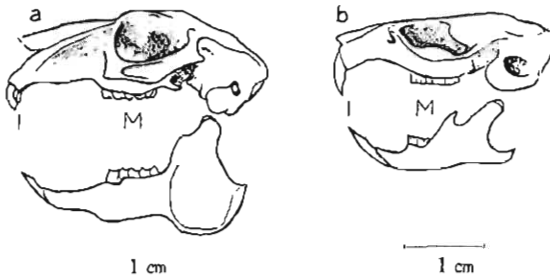


図1 ノウサギの頭骨(a)とエゾヤチネズミの頭骨(b)の側面。Iは切歯、Mは臼歯（ノウサギの場合は前臼歯と臼歯）。ノウサギの切歯は上2対、下1対。エゾヤチネズミの切歯は上下とも1対である。

の横ではなくすぐ後にある（図-1a）。したがって、ものをかじっても、大きい1対の歯の跡しか残らない。なおこれらの草食性の動物には、切歯のほかに食べたものをすりつぶす前臼歯と臼歯（ネズミでは臼歯のみ）があるが、犬歯はない（図-1）。

エゾヤチネズミの切歯もノウサギの切歯も2本ずつならんでいるので、歯跡は2本ずつならんでつくことになる（図-2）。切歯の巾は、エゾヤチネズミで1.3mm、ノウサギで3mmである。またエゾヤチネズミはノウサギのように大きく口を開けることができないので、かじり跡の長さはせいぜい5mmである。

このように切歯の巾がちがうため、歯跡もエゾヤチネズミのものとは、はっきりちがう（写真-3）。これが第2の区別点である。

前にも述べたように、被害木に形成層が部分的に残っていると、このような歯跡の区別はやさしい。とくにトドマツがノウサギにかじられた場合には形成層が残っていることが多く、歯

（図-1）。また針葉が長いときには針葉だけを食ふことがある（写真-2）。切りおとしたあとはよく切れる刃物で切ったようになっている。これが第1の区別点である。

木の枝、幹が太くなると、木の皮だけを食ふ木部を残し、ときには形成層をわずかに残すことがある。この場合には被害木に歯跡が残り、とくに形成層が一部分残っているときには一層ははっきりする。

エゾヤチネズミとノウサギの歯跡がどのようにちがうかを述べる前に、これらの動物の歯について簡単に説明しておきたい。

ウサギやネズミがものをかじりとる歯を「切歯（または門歯）」といい、ナイフやノミと同じようなはたらきをする。この歯はヒトの前歯に相当するが、ヒトでは上下とも2対あるのに、ネズミでは上下とも1対、ウサギでは上2対下1対である（図-1）。ウサギの上顎には2対の切歯があるといっても、1対は大きい、他の2対は小さく、大きい歯

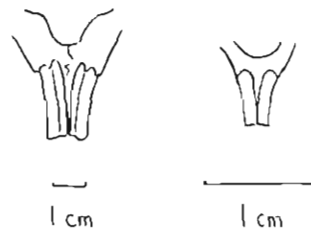


図-2 ノウサギの切歯（左）とエゾヤチネズミの切歯（右）を前からみたところ。

跡の区別は簡単である(写真-4)。しかし、形成層まできれいに食害され、残っているのが木部だけとなると区別がむずかしくなる。このようなときにはよく見ると、エゾヤチネズミに食害された場合には、木部の表面は生皮をむいたときのように比較的なめらかで、ときにところどころに歯跡がついている。一方ノウサギに食害された場合には、木部の表面は毛ばだつており、ひどいときにはかたいものでけずりとったように、木部もひどくかじられていて、エゾヤチネズミによる食害とは区別できる(写真-5)。これが第3の区別点である。



写真3 ノウサギの歯跡(左)とエゾヤチネズミの歯跡(右)



写真4 ノウサギによるトドマツの被害。皮層部だけがかじられたときには歯跡がはっきりしている。

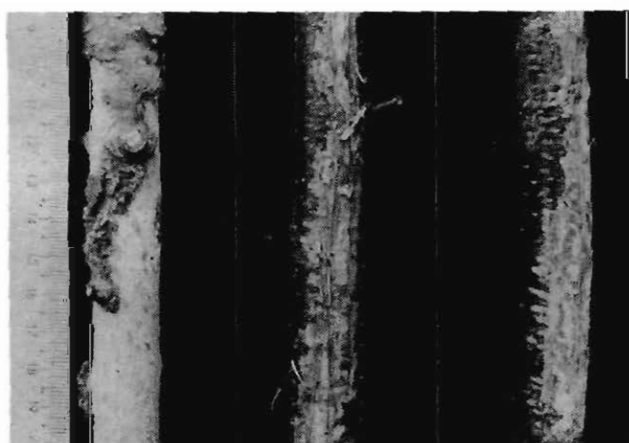


写真5 ノウサギによるトドマツの被害。木部がひどくかじられ、一見してエゾヤチネズミによる被害と区別できる(右、中央)。それはひどくかじられていなくても、木部の表面は毛ばだつている(左)。

カラマツなどにみられた、これまでのノウサギ害は、木部までひどくかじられ、一見してエゾヤチネズミによる被害と区別でき、またこれがノウサギ害の代表的な例とされてきた。しかし、はじめに述べたように、トドマツまで、ノウサギ害がではじめている。この被害をみると、半分くらいは皮層部がかじられ、形成層の一部分が残っており、木部がでていながらもカラマツのようにひどくか

じられておらず、表面が毛ばだつ程度である。(くわしくは藤巻(1969:野ねずみ299:1-3)を参照のこと)。そのためエゾヤチネズミによる被害と区別しにくい、被害調査の際には上にあげたいいくつかの区別点を参考にさせていただきたいと思う。(昆虫野兎鼠科)